

経済・金融フラッシュ

No.07-005 2007/04/25

貿易統計 07年3月～1-3月期の外需寄与度は明確なプラスに

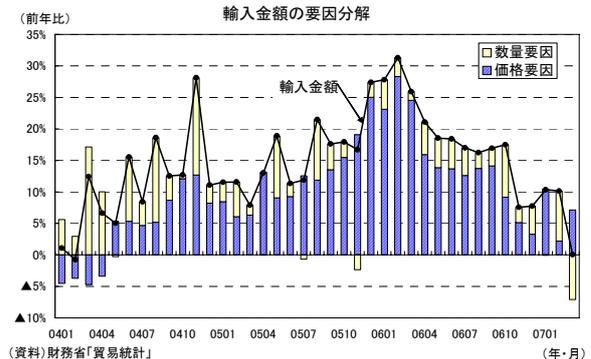
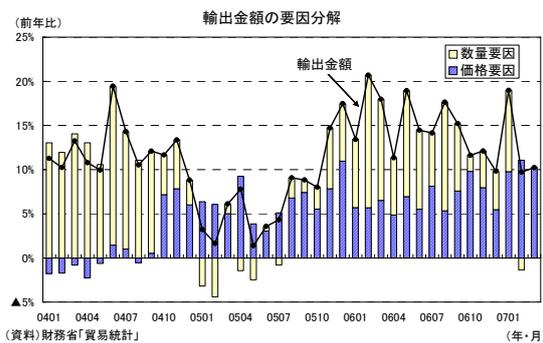
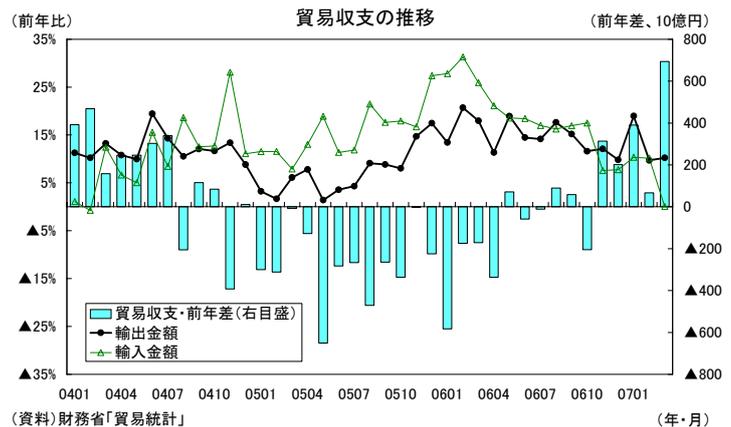
ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支は5ヵ月連続で改善

財務省が4月25日に公表した貿易統計によると、3月の貿易黒字は16,335億円（前年比73.9%）となり、事前の市場予想（ロイター集計：13,458億円、当社予想は15,279億円）を大きく上回った。貿易収支は5ヵ月連続で前年よりも改善した。

輸出数量は前年比0.0%と横ばいにとどまったが、輸出価格が前年比10.2%と高い伸びとなったことから、輸出額が前年比10.2%（2月：同9.7%）となる一方、輸入数量が前年比▲6.8%（2月：同7.9%）と大きく落ち込んだことから輸入額は前年比0.0%（2月：同10.1%）と伸びが大きく鈍化した。

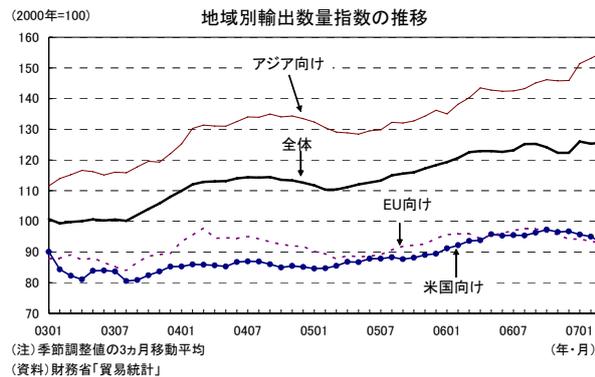


輸出の内訳を見ると、自動車（前年比15.1%）、非鉄金属（同29.8%）、化学製品（同13.6%）などが高い伸びとなった。IT関連品目では、半導体電子部品（前年比16.9%）、通信機（同90.4%）が高い伸びとなる一方、科学光学機器（同▲25.8%）、コンピューター（同▲1.8%）は減少するなどまだら模様となったが、IT関連全体では堅調を維持した。輸入は、化学製

品（前年比 13.7%）は増加したが、鉱物性燃料（同▲5.2%）、一般機械（同▲6.4%）が減少した。

2. 米国、EU 向けの輸出が低調

輸出数量は前年比 0.0%と 2 月の同▲1.3%に続き低迷した。旧正月の影響で伸び率が縮小していたアジア向けは前年比 7.4%（2 月：同 2.5%）と伸びを高めたが、米国向けが同▲4.2%（2 月：同 1.7%）、EU 向けが同▲3.7%（2 月：同▲0.4%）の減少となった。3 月の輸出数量の前月比は▲0.1%、1-3 月期の前期比は 1.3%（筆者による季節調整値で計算）となった（06 年 10-12 月期は▲1.2%）。アジア向けは好調を維持しているが、米国向け、EU 向けは減少しており、輸出数量は全体としてはほぼ横ばいの動きが続いている。



米国経済は潜在成長率を下回る成長が続いており、1-3 月期も前期比年率 2%前後の低い伸びとなることを見込まれている。高成長が続く中国を中心にアジア向け輸出の増加は今後も続く可能性が高いが、米国向け輸出は当面低調な動きが続くことが予想される。

3. 1-3 月期の外需寄与度は明確なプラスに

3 月までの貿易統計と 2 月までの国際収支統計の結果を踏まえて、07 年 1-3 月期の実質 GDP ベースの輸出入を試算すると、輸出が前期比 3%程度、輸入が同 2%程度となり、外需寄与度は 06 年 10-12 月期の前期比 0.1%からプラス幅が拡大すると予想される。

当研究所では、4 月 27 日に公表される経済統計を受けて、1-3 月期の GDP 速報の予測を発表する予定である。現時点では、国内需要は個人消費を中心に堅調となる可能性が高く、外需も成長率を押し上げる方向に働くことから、06 年 10-12 月期の年率 5.5%の高成長に続き、07 年 1-3 月期も潜在成長率を上回る伸びになる可能性が高いと考えている。